2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月10日

上場会社名　　株式会社ロブテックス　　上場取引所　東
コード番号　　5969　　ＵＲＬ　https://www.lobtex.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）地引　俊爲
問合せ先責任者　（役職名）取締役執行役員　経営管理本部長　（氏名）森下　幸治　　ＴＥＬ　072-980-1110
半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日 －
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	2,704	△2.8	164	140.6	169	127.6	102	208.0
2026年３月期中間期	2,784	0.3	68	△50.3	74	△46.6	33	△58.8

（注）包括利益　2027年３月期中間期　246百万円（166.3%）　2026年３月期中間期　92百万円（7.0%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	54.79	－
2026年３月期中間期	17.79	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	8,658	5,151	59.5
2026年３月期	8,418	4,961	58.9

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　5,151百万円　2026年３月期　4,961百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	30.00	30.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	30.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,730	0.3	180	△1.2	180	△5.9	120	△2.3	64.26

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	2,000,000株	2026年３月期	2,000,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	132,750株	2026年３月期	132,600株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	1,867,330株	2026年３月期中間期	1,867,400株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の３ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の我が国経済は、雇用や所得環境の改善が見られた一方で、物価上昇の継続、金利・為替の変動、中東の不安定な情勢の長期化などによって、先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループでは、経営ビジョン「モノづくりのプロに応え、モノづくりの愉しさを育む」、経営スローガン「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、つくる愉しさを伝え広げる事で社会に貢献します」の発信と浸透を更に進め、経営課題である「業務の整流化を徹底し、利益体質の強化を図る」を追求し、経営目標達成に向け努力してまいりました。

そして、その経営ビジョンを推し進めるにあたり、経営課題の解決に向け、すべての考動の軸を商品とするために、これまで分離していた製販組織を一体化し、企画、開発から営業までを一気通貫で事業部が担うことで、より市場環境に適合した事業戦略を構築し、収益力の強化を図るべく、事業統括本部を設置しました。

配下には、ハンドツール事業部とファスニング事業部の２事業部を置き、営業と開発担当をそれぞれの事業部に配置し、共通の利益目標に向かって全員が「一蓮托生」で取り組む体制としたことで事業収支改善の徹底による「業務の整流化」と「利益体質の強化」を図りました。

ハンドツール事業部では、開発から生産までの商品化プロセスを加速させ、安定的且つ効率的な供給体制の構築に取り組み、特に生産拠点であるグループ会社、鳥取ロブスターツール株式会社との連携を図ることによりエビ印ブランドの根幹である作業工具を中心に国内外での市場占有率の向上と収益力の強化に取り組みました。

ファスニング事業部では、需要が増加している接合作業の自動化装置など、ファスニング分野のさらなる伸長を図るため、リベッティングに留まらないファスニング自動化システムの推進、コンストラクションファスナーの事業化、総合的なファスニング事業ビジョンの構築を目指し、技術開発、営業、アフターサービス部門が一体となり、お客様の要求に“きめ細やかに”そして、市場ニーズを的確に捉えるべく製販一体となって対応しました。また、グループ会社でありファスナー専門商社の株式会社ロブテックスファスニングシステムと連携の下、営業力の強化を図り、同社の管理、品質、技術部門を当社と連携することで販路拡大に特化・集中できる体制としたことにより、省人化を目的としたリベッティングの自動機やシステム物件の引き合いが増加傾向にあり、着実に受注に結びつきました。

その結果、売上高は前年同期比2.8％減の2,704百万円（前年同期2,784百万円）となりましたが、営業利益は、一部商品の拡販努力などにより、前年同期に売上原価率を上昇させた在庫評価に関する費用が減少したことに加え、経費節減もあったことから、同140.6%増の164百万円（同68百万円）、経常利益は同127.6%増の169百万円（同74百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益は同208.0%増の102百万円（同33百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①金属製品事業

ハンドツール事業では、国内売上においては、電設工具が好調でしたが、海外売上において、特に韓国における市況の低迷が影響し、レンチ・プライヤ類の販売が低調に推移しました。なお、新シリーズである“J-CRAFT99”においては販売を強化し、国内海外ともに新規取扱店の拡大が進んでいます。

ファスニング事業においては、2024年６月に連結子会社である株式会社ロブテックスファスニングシステムを100％子会社化したことに伴う一部商品のグループ会社外への移管による売上減少の影響がありましたが、この点については、他商品の販売により、移管前の売上高に回復してまいりました。また、国内・海外ともに省人化を目的としたリベッティングの自動機やシステム物件の引き合いが増加傾向にあり、特に国内では着実に受注・売上に結びつきました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は、前年同期比2.9％減の2,584百万円（前年同期2,660百万円）となりましたが、セグメント利益については、一部商品の拡販努力などにより、前年同期に売上原価率を上昇させた在庫評価に関する費用が減少したことに加え、経費節減もあって、同829.1%増の104百万円(同11百万円)となりました。

②レジャー事業

ゴルフ練習場における売上高は、サービス向上や集客施策を実施してまいりましたが、一人当たりの売上高は前年同期並みとなったものの、天候や気温などの影響により、来場者数は減少し、前年同期比2.5％減の120百万円（前年同期124百万円）となりました。セグメント利益については、経費節減に努めた結果、同4.8％増の59百万円（同57百万円）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は8,658百万円となり、前連結会計年度末に比べ239百万円増加しました。

（資産）

流動資産は前連結会計年度末比72百万円増の5,670百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金や電子記録債権が減少する一方で、現金及び預金や棚卸資産が増加したことによるものです。

固定資産は同167百万円増の2,987百万円となりました。これは主に減価償却費の計上による減少がある一方で、投資有価証券の時価上昇による増加や設備投資の実施があったことによるものです。

（負債）

流動負債は前連結会計年度末比3百万円増の2,301百万円となりました。これは主に未払金が減少する一方で、買掛金が増加したことによるものです。

固定負債は同46百万円増の1,204百万円となりました。これは主に長期借入金が減少する一方で、繰延税金負債が増加したことによるものです。

（純資産）

純資産は前連結会計年度末比190百万円増の5,151百万円となりました。これは主に配当支出による減少があるものの、投資有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加や親会社株主に帰属する中間純利益の計上による増加があったことによるものです。

（キャッシュ・フローの状況）

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ355百万円増加（前年同期236百万円増加）し、2,004百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

棚卸資産の増加による減少がある一方で、売上債権の減少や減価償却費の計上及び仕入債務の増加などにより、資金が579百万円増加（前年同期345百万円増加）しました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

定期預金の新規預け入れや有形固定資産の取得を主因に、資金が89百万円減少（前年同期38百万円減少）しました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

借入金の返済や配当金の支払いなどにより、資金が134百万円減少（前年同期70百万円減少）しました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の業績は、概ね当初に想定した範囲内で推移しており、2026年５月12日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,975,711	2,381,238
受取手形及び売掛金	1,124,274	822,424
電子記録債権	197,830	99,042
商品及び製品	1,513,923	1,585,556
仕掛品	349,012	392,944
原材料及び貯蔵品	306,734	313,665
その他	130,947	75,823
流動資産合計	5,598,436	5,670,695
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	662,390	634,651
土地	668,226	668,226
その他（純額）	483,831	447,394
有形固定資産合計	1,814,449	1,750,272
無形固定資産	30,202	45,214
投資その他の資産		
投資有価証券	746,363	964,641
その他	228,703	227,285
投資その他の資産合計	975,066	1,191,927
固定資産合計	2,819,718	2,987,414
資産合計	8,418,154	8,658,109

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	259,680	342,511
短期借入金	1,519,864	1,510,186
未払法人税等	57,020	50,416
その他	461,758	398,692
流動負債合計	2,298,323	2,301,805
固定負債		
長期借入金	972,558	923,122
退職給付に係る負債	91,777	98,063
その他	93,737	183,235
固定負債合計	1,158,072	1,204,421
負債合計	3,456,396	3,506,227
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	493,710	493,710
利益剰余金	3,346,290	3,392,587
自己株式	△164,534	△164,713
株主資本合計	4,635,466	4,681,584
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	326,292	470,297
その他の包括利益累計額合計	326,292	470,297
純資産合計	4,961,758	5,151,882
負債純資産合計	8,418,154	8,658,109

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	2,784,285	2,704,969
売上原価	1,955,703	1,779,118
売上総利益	828,582	925,851
販売費及び一般管理費	760,305	761,568
営業利益	68,276	164,282
営業外収益		
受取配当金	14,412	15,771
その他	9,310	9,539
営業外収益合計	23,723	25,311
営業外費用		
支払利息	16,901	19,796
その他	705	505
営業外費用合計	17,607	20,301
経常利益	74,393	169,292
税金等調整前中間純利益	74,393	169,292
法人税等	41,174	66,973
中間純利益	33,218	102,318
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純利益	33,218	102,318

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	33,218	102,318
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	59,283	144,005
その他の包括利益合計	59,283	144,005
中間包括利益	92,501	246,324
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	92,501	246,324
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	74,393	169,292
減価償却費	112,096	94,370
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	3,608	6,286
受取利息及び受取配当金	△16,279	△18,861
支払利息	16,901	19,796
為替差損益（△は益）	△295	△55
売上債権の増減額（△は増加）	114,473	400,638
棚卸資産の増減額（△は増加）	△71,311	△122,495
仕入債務の増減額（△は減少）	151,239	82,830
その他の資産の増減額（△は増加）	△1,735	55,712
その他の負債の増減額（△は減少）	454	△63,783
小計	383,545	623,732
利息及び配当金の受取額	16,325	18,924
利息の支払額	△16,956	△20,368
助成金の受取額	－	300
法人税等の支払額	△50,435	△45,457
法人税等の還付額	13,253	2,268
営業活動によるキャッシュ・フロー	345,732	579,400
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△276,601	△326,602
定期預金の払戻による収入	276,600	276,601
有形固定資産の取得による支出	△32,438	△31,626
無形固定資産の取得による支出	－	△820
投資有価証券の取得による支出	△6,596	△7,263
その他	180	705
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,855	△89,006
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	350,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△345,502	△359,114
リース債務の返済による支出	△19,358	△19,608
自己株式の取得による支出	－	△178
配当金の支払額	△56,022	△56,022
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,882	△134,923
現金及び現金同等物に係る換算差額	295	55
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	236,290	355,525
現金及び現金同等物の期首残高	1,961,297	1,649,110
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,197,587	2,004,636

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			中間連結損益計算書計上額
	金属製品事業	レジャー事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,660,231	124,054	2,784,285	2,784,285
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	2,660,231	124,054	2,784,285	2,784,285
セグメント利益	11,251	57,025	68,276	68,276

（注）　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			中間連結損益計算書計上額
	金属製品事業	レジャー事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,584,025	120,944	2,704,969	2,704,969
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－
計	2,584,025	120,944	2,704,969	2,704,969
セグメント利益	104,533	59,748	164,282	164,282

（注）　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。